

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年6月21日(2007.6.21)

【公開番号】特開2000-351984(P2000-351984A)

【公開日】平成12年12月19日(2000.12.19)

【出願番号】特願2000-146450(P2000-146450)

【国際特許分類】

C 10 M 169/04	(2006.01)
C 10 M 101/02	(2006.01)
C 10 M 129/10	(2006.01)
C 10 M 129/40	(2006.01)
C 10 M 129/44	(2006.01)
C 10 M 129/76	(2006.01)
C 10 M 133/12	(2006.01)
C 10 M 133/38	(2006.01)
C 10 M 133/44	(2006.01)
C 10 M 133/56	(2006.01)
C 10 M 135/22	(2006.01)
C 10 M 135/30	(2006.01)
C 10 M 145/26	(2006.01)
C 10 N 30/08	(2006.01)
C 10 N 30/10	(2006.01)
C 10 N 30/12	(2006.01)
C 10 N 40/08	(2006.01)

【F I】

C 10 M 169/04
C 10 M 101/02
C 10 M 129/10
C 10 M 129/40
C 10 M 129/44
C 10 M 129/76
C 10 M 133/12
C 10 M 133/38
C 10 M 133/44
C 10 M 133/56
C 10 M 135/22
C 10 M 135/30
C 10 M 145/26
C 10 N 30:08
C 10 N 30:10
C 10 N 30:12
C 10 N 40:08

【手続補正書】

【提出日】平成19年5月8日(2007.5.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

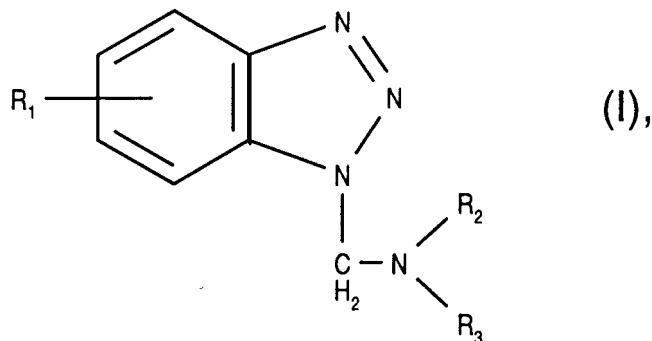
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

- (a) 水素化処理された油または水素化脱ワックスされた油；  
 (b) (i) 次式 (I)

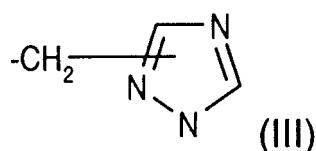
【化 1】



[式中、R<sub>1</sub>は水素原子または炭素原子数1ないし12のアルキル基を表し、そしてR<sub>2</sub>およびR<sub>3</sub>は、互いに独立して水素原子、炭素原子数1ないし20のアルキル基、炭素原子数3ないし20のアルケニル基、炭素原子数5ないし12のシクロアルキル基、炭素原子数7ないし13のアルアルキル基、炭素原子数6ないし10のアリール基、ヒドロキシ基を表すか、またはR<sub>2</sub>およびR<sub>3</sub>は、それらが結合している窒素原子と一緒にになって、5-、6-または7-員複素環式残基を表すか、またはR<sub>2</sub>およびR<sub>3</sub>は、それぞれ次式(II)]

R<sub>4</sub>X[(アルキレン)O]<sub>n</sub>(アルキレン)-(II) (式中、Xは酸素原子、硫黄原子または窒素原子を表し；R<sub>4</sub>は水素原子または炭素原子数1ないし20のアルキル基を表し；アルキレンは炭素原子数1ないし12のアルキレン残基を表し；そしてnは0、または1ないし6の整数である。)で表される残基を表すか、またはR<sub>2</sub>は上述で定義された通りであり、そしてR<sub>3</sub>が次式(III)]

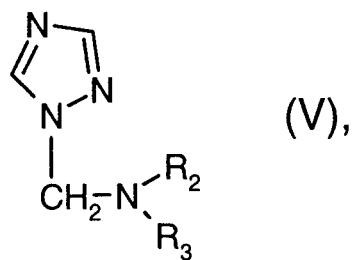
【化 2】



で表される残基を表すか、または上述で定義された式(II)で表される残基を表し、そしてR<sub>2</sub>は次式(IV)

-[アルキレン]<sub>n</sub>-N(R<sub>5</sub>)-A-[N(R<sub>5</sub>)<sub>2</sub>]<sub>m</sub>(IV) (式中、mは0または1であり、そしてmが0である場合、Aは式(III)で表される残基を表し、そしてmが1である場合、Aはアルキレン基または炭素原子数6ないし10のアリーレン基を表し；そしてアルキレンおよびnは上述の意味を有し；そしてR<sub>5</sub>は上述で定義された式(III)で表される残基を表す。)で表される残基を表す。]で表される金属奪活剤の有効安定化量；あるいは(i)次式(V)

【化 3】



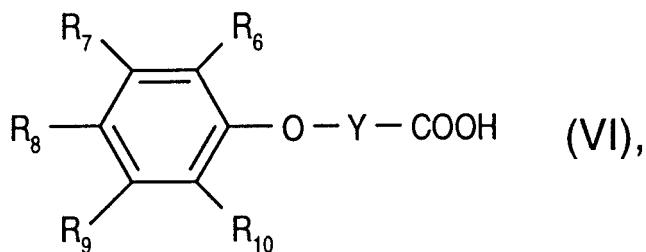
(式中、R<sub>2</sub>およびR<sub>3</sub>は上述で定義された通りである。)で表される金属奪活剤の有効安定化量；

(c) 立体障害性フェノール系酸化防止剤の有効安定化量；

(d) 芳香族アミン酸化防止剤の有効安定化量；

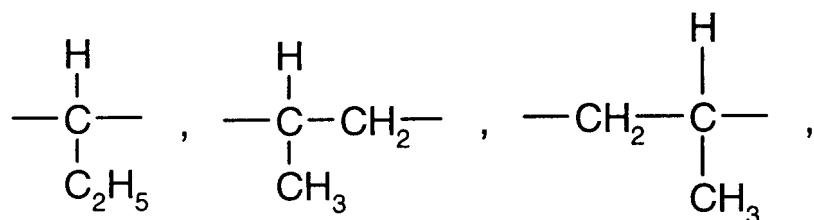
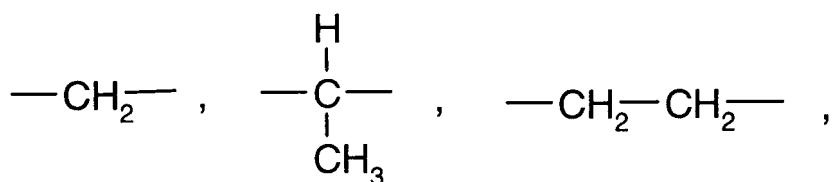
(e) 次式(VI)

【化4】



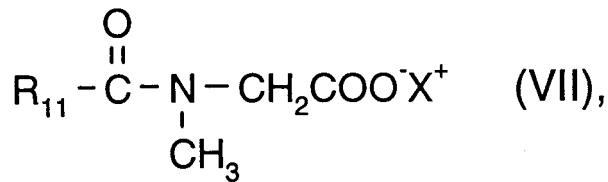
(式中、R<sub>6</sub>、R<sub>7</sub>、R<sub>8</sub>、R<sub>9</sub>およびR<sub>10</sub>は、互いに独立して水素原子または炭素原子数1ないし20のアルキル基を表し、そしてYは

【化5】



および -CH<sub>2</sub>-CH<sub>2</sub>-CH<sub>2</sub>-；からなる群から選択された、飽和または不飽和の炭素原子数1ないし20の二価の炭化水素基を表す。)で表されるアルキルフェノキシアルカン酸の有効安定化量；および(f)次式(VII)

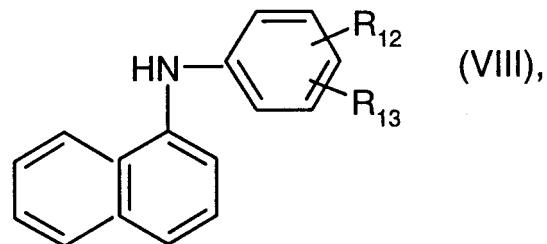
【化6】



(式中、アシル基  $\text{R}_{11}-\text{C}(=\text{O})-$  は 10 ないし 20 個の炭素原子を有する脂肪酸の残基を表し、そして  $\text{X}^+$  は水素イオン、アルカリ金属イオンまたはアンモニウムイオンを表す。) で表される  $n$ -アシルサルコシン誘導体の有効安定化量；からなる潤滑剤組成物。

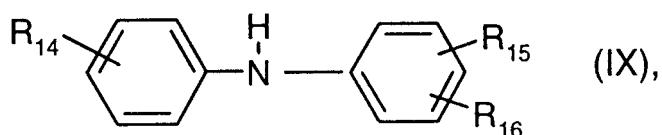
【請求項 2】 (b) が 1-[ビス(2-エチルヘキシル)アミノメチル-4-メチル]ベンゾトリアゾールであり；(c) が 3,5-ジ第三ブチル-4-ヒドロキシヒドロ桂皮酸、炭素原子数 7 ないし 9 のアルキルエステルであり；(d) が次式 (VIII)

【化 7】



(式中、 $\text{R}_{12}$  は水素原子または炭素原子数 8 ないし 13 のアルキル基を表す。) で表されるフェニルナフチルアミンか、次式 (IX)

【化 8】



(式中、 $\text{R}_{12}$  は水素原子を表し、 $\text{R}_{13}$  は水素原子または炭素原子数 8 ないし 13 のアルキル基を表す。) で表されるジフェニルアミンであるか；または (e) がノニルフェノキシ酢酸であり；そして (f) が次式  $\text{C}_{17}\text{H}_{33}-\text{C}(\text{O})-\text{N}(\text{C}_2\text{H}_5)-\text{CH}_2\text{COOH}$  で表される  $n$ -アシルサルコシンである請求項 1 記載の潤滑剤組成物。